

“フクオカ・シティ”ブースター —「専門サービス業」が促す“グローバルシティ・福岡市”の進運—

畠山 尚久 HATAKEYAMA Naohisa

(公財) 福岡アジア都市研究所 主任研究員

■要旨：福岡市は急速に国際化が進んでいるが、世界の都市評価ランキングでは、「FUKUOKA」の存在感は、まだ十分でなく、ヨーロッパの都市などとは依然として差がある。一方で、東アジア、東南アジアの福岡市と同規模の都市と比較すると、福岡市は相対的に国際的な評価は高い。世界から選ばれ、さらに評価されるグローバルシティとなるためには、今日では「グローバル企業」の存在が大きく影響しており、特に企業の戦略・中枢機能の立地が重要となっている。グローバルシティ化を加速するには、こうした企業の誘致とともに、グローバル企業が金融、会計、法務などの分野をアウトソーシングする専門的なサービスを提供する企業の存在が重要となる。福岡市は、専門サービス業分野で一定の集積があり、この強みをいかし、グローバル企業との連携を強めることで、福岡市のグローバルシティ化がさらに加速し、世界の中での存在感が高まるとともに、東アジア、東南アジアの同規模の都市の中で、「アジアのリーダー都市」となる可能性を示した。

■キーワード：グローバルシティ、国際化、グローバル企業、世界都市ランキング、専門サービス業、アジアのリーダー都市

はじめに

福岡市は、近年急速に国際化が進み、在住外国人は約5万人に達し、過去最高を更新し続けている(図1)。訪問者を含め、まちなかには外国人が多くみられるようになり、人の交流面でも、福岡市の国際化の進展を肌で感じる機会が増えた。

福岡空港と海外を結ぶ航空路線は、9カ国・地域、18都市、18路線、441往復／週を数え、アジアを中心とした人やモノのネットワークが拡大している(図2)。

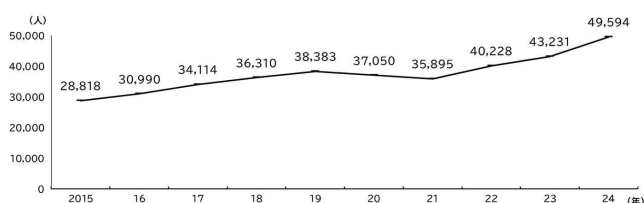


図1 福岡市の在住外国人数の推移

出所：住民基本台帳 * 各年9月末現在

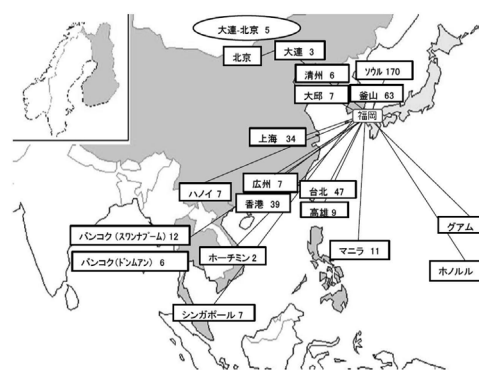


図2 福岡空港国際線路線図

出所：福岡県の国際化の現状(2024年10月1日現在)

福岡市の国際化は、関連指標の推移からも、その勢いがみられる。主な指標について、2000年値を100とした場合の直近値(指数)は、ほとんどが100を超え、博多港貿易額が627.2、在住外国人口290.8、福岡空港国際線乗降客数255.6(いずれも2023年)など、この20年あまりで数倍の伸びを見せているものもある(図3)。

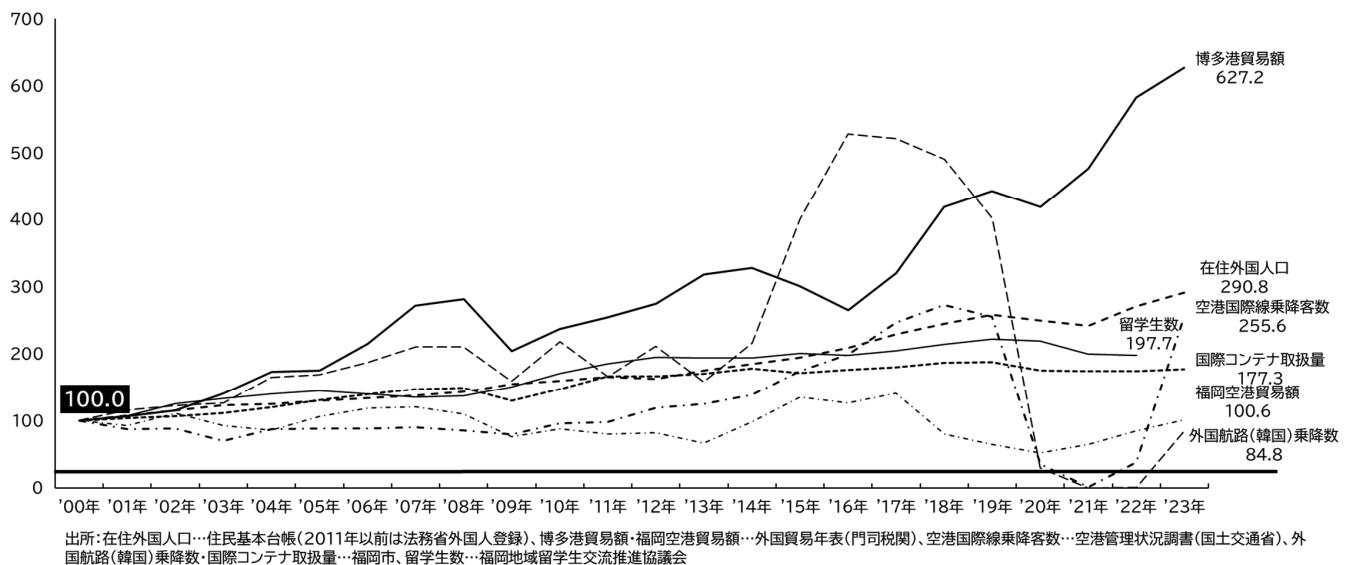


図3 福岡市の国際化関連指標・2000年を100とした推移(指数・2000～2023年)

数字の上では、福岡市の国際化は間違いなく進展しているが、国境を越えた都市間競争が激しくなる中で、福岡市は、世界とどう向き合い、都市の成長に結び付けていくか、福岡市が基本計画の中で示す「人と環境と都市活力の調和がとれたアジアのリーダー都市」の実現に向けて、次のステージを見据える時期にある。

詳細は後述するが、現在では、国際化はグローバル化と呼ばれるようになった。グローバル化した都市＝グローバルシティとして、福岡市が、どのような位置付けにあり、今後さらに発展していくか、考察を進めたい。

1. 世界の中の“フクオカ・シティ”

1.1 東アジア・東南アジア地域のメガシティではない大都市

アジア地域が世界の成長エンジンと言われて久しいが、世界の大都市化は、アジア地域が最も顕著に進んでいる。人口1,000万人以上の大都市圏域は、アジア地域だけで26圏域あり、次に多い中南米地域の6圏域を大きく引き離して、世界で最も人口が集中し、成長していることを示しているが、このうち18圏域が東アジア、東南アジア地域にある⁽¹⁾。

都市化の進展で、メガシティではない福岡市のような中小規模の都市も各地に増えており、個々の都市は、それぞれ「大都市」として発展し、地域の中

核的な機能を有しているとみられる。日本においても、福岡市より人口規模の小さい都市を含む20の政令指定都市と、東京都特別区部を含めて「大都市」と規定され⁽²⁾、各地域の中核をなしている。

東アジア、東南アジア地域における福岡市と同等の人口規模(150～400万人以下)の大都市圏域は、福岡市を含め40圏域を数える(表1)。内訳は、中国が24圏域で最も多く、以下インドネシア5圏域、韓国、台湾、マレーシア各2圏域などとなっている。

これらの都市の域内生産額の経済活動3区分別構成比は、中国の各都市をはじめ、多くの都市が「第2次産業(製造業・建設業・鉱業)」の割合が4～5割前後を占めており、製造業等が盛んとなったことで、人口が集積し、都市化が進んできたことをうかがわせる。福岡市のように、「第3次産業(サービス業)」構成比が9割を超える都市はなく、東アジア、東南アジア地域の同規模の大都市と比較すると、特異な産業構成といえる。日本とこれら都市のある国・地域との、国自体の経済活動、産業構成の違いもあるが、福岡市は、国内主要大都市の中でも第3次産業割合は最も高く⁽³⁾、サービス業を中心に、人口が集中して成長した都市であることは明らかである。

表1 福岡市と人口規模に近い東アジア、東南アジア地域の大都市群

No.	都市圏域・中心市	国・地域	人口(人)		域内生産額構成比			年
			圏域人口	km ² あたり	第1次産業	第2次産業	第3次産業	
1	石家荘市/Shijiazhuang	中国	3,871,000	4,396	7.9%	32.9%	59.3%	2022
2	ハルビン市/Harbin	中国	3,869,000	5,768	12.2%	23.4%	64.4%	2022
3	長春市/Changchun	中国	3,387,000	4,138	8.1%	40.0%	51.9%	2022
4	南寧市/Nanning	中国	3,249,000	6,602	11.5%	22.7%	65.8%	2022
5	蘭州市/Lanzhou	中国	2,977,000	8,210	1.9%	34.4%	63.6%	2022
6	張家港市/Zhangjiagang	中国	2,770,000	3,363	0.9%	50.6%	48.5%	2022
7	海口市/Haikou	中国	2,566,000	5,535	4.7%	19.0%	76.3%	2022
8	銀川市/Yinchuan	中国	2,317,000	4,301	3.6%	49.8%	46.6%	2022
9	珠海市/Zuhai	中国	2,313,000	6,665	1.5%	44.7%	53.8%	2022
10	シ博市/Zibo	中国	2,222,000	2,681	4.3%	49.8%	45.9%	2022
11	崑山市/Kunshan	中国	2,213,000	3,605	0.6%	52.2%	47.2%	2022
12	フフホト市/Hohhot	中国	2,212,000	4,642	7.1%	31.0%	61.9%	2022
13	汕頭市/Shantou	中国	2,201,000	5,985	4.5%	47.9%	47.5%	2022
14	包頭市/Baotou	中国	2,116,000	3,890	3.5%	52.7%	43.8%	2022
15	洛陽市/Luoyang	中国	2,082,000	3,739	4.5%	43.6%	51.9%	2022
16	紹興市/Shaoxing	中国	1,951,000	3,570	3.3%	49.0%	47.7%	2022
17	惠州市/Huizhou	中国	1,893,000	5,942	5.1%	55.9%	39.0%	2022
18	西寧市/Xining	中国	1,845,000	4,071	3.8%	37.6%	58.6%	2022
19	慈谿市/Cixi	中国	1,832,000	3,572	2.6%	60.7%	36.7%	2022
20	義烏市/Yiwu	中国	1,818,000	5,161	1.4%	33.6%	65.0%	2022
21	唐山市/Tangshan	中国	1,747,000	2,895	7.2%	55.3%	37.5%	2022
22	莆田市/Putian	中国	1,676,000	2,101	4.7%	52.3%	43.0%	2022
23	江門市/Jiangmen	中国	1,599,000	3,835	8.6%	45.7%	45.7%	2022
24	邯鄲市/Handan	中国	1,553,000	2,883	10.0%	30.5%	59.6%	2021
25	台中市/Taichung	台湾	2,517,000	6,190	2.3%	58.2%	39.5%	2022
26	高雄市/Kaohsiung	台湾	2,346,000	6,247	1.0%	28.3%	70.6%	2022
27	釜山広域市/Busan	韓国	3,843,000	6,451	0.5%	22.2%	77.3%	2021
28	大邱広域市/Daegu	韓国	2,289,000	9,111	0.2%	27.4%	72.4%	2021
29	スマラン/Semarang	インドネシア	2,319,000	8,954	0.8%	55.3%	43.9%	2022
30	パレンバン/Palembang	インドネシア	2,069,000	9,398	0.5%	48.5%	51.0%	2021
31	マカッサル/Makassar	インドネシア	1,936,000	10,833	0.4%	34.6%	65.0%	2022
32	マラン/Malang	インドネシア	1,620,000	7,628	0.2%	39.3%	60.4%	2022
33	ジョグジャカルタ/Yogyakarta	インドネシア	1,576,000	6,837	0.1%	19.0%	80.9%	2022
34	ジョホールバル/Johor Bahru	マレーシア	2,040,000	2,557	12.2%	35.5%	52.3%	2020
35	ペナン州/Penang	マレーシア	1,704,000	3,273	1.8%	50.8%	47.3%	2022
36	プノンペン/Phnom Penh	カンボジア	2,196,000	7,125	21.9%	37.7%	33.7%	2022
37	マンダレー/Mandalay	ミャンマー	1,644,000	12,446	24.6%	32.3%	43.2%	2018
38	ウランバートル/Ulaanbaatar	モンゴル	1,594,000	5,004	0.2%	38.2%	61.6%	2022
39	セブ/Cebu	フィリピン	2,482,000	12,130	7.1%	25.0%	67.9%	2022
40	福岡市/Fukuoka	日本	2,368,000	4,689	0.1%	9.6%	90.3%	2021

人口：Demographia World Urban Areas 2023 (DEMOGRAPHIA)、域内総生産構成比：各都市統計
都市圏域人口密度なども考慮して人口150～400万人規模の都市を選出。圏域人口で自治体の境界とは異なる。海外都市比較のため国内都市は省略

1.2 福岡市とアジア都市の国際評価

東アジア、東南アジア地域のメガシティではない大都市群は、福岡市を含め、グローバルシティとして、世界で存在感を発揮できているか、複数の都市調査機関が公表している都市ランキングから、40都市の評価をみる。

「都市」をグローバルに評価する調査はさまざまあるが、ここでは主な8つの調査におけるランキングをみる。8つの調査とそれぞれの評価ポイントは

以下の通りである。

◇主な都市ランキング（評価機関）

① Global Cities Index 2024（Oxford Economic）

イギリス本社の世界的な調査研究機関であるオックスフォード・エコノミクスによる、主な都市ランキングで、1,000都市を対象としている。経済、人的資本、生活の質、環境、ガバナンスの5つのカテゴリに基づき、27の指標による経済予測や、公表されているデータセットによって補完される。

② CITY BRAND BAROMETER 2023 (Saffron)

地域のブランドづくりや企業のコンサルティングを行うスペインの Saffron Brand Consultant が発表する都市の「ブランド力」の調査で、「プロミス」(認知度、魅力度など)、「エクスペリエンス」(人材育成と労働力、経済力、QOL、ガバナンスなど)、「デリバリー」(インフラ、テクノロジー、グローバル・コネクティビティ、起業家精神、イノベーションなど)の視点で 100 都市のブランド力を公表している。

③ World's Best Cities2024 (Resonance Consultancy)

カナダ・バンクーバーのマーケティングコンサルタント・Resonance Consultancy による都市の魅力のランキングで、生活、仕事、遊びの場として、270 以上の世界都市（人口 100 万人以上の主要大都市圏）を評価し、上位 100 都市を公表している。

④ Innovation Cities Index 2023 (2ThinkNow)

オーストラリアの企業経営コンサルタント 2THINKNOW による「イノベーション都市」としての評価を、162 の指標、エビデンスに基づく都市ベンチマークデータ、経済ケーススタディ、その他のリソースをもとに、500 都市を対象に評価している。

⑤ Quality of Living City Ranking 2023 (Mercer)

主に海外に赴任する人のための生活の質に関するデータを提供するリーディングカンパニーのマーサーによる生活の質に関する調査で、ビジネスパーソン向けに、「海外赴任者とその家族の日常生活」に関する 241 都市の情報を提供し、多国籍企業や政府が海外赴任者の派遣先を検討する際の参考となっている。

⑥ The Global Liveability Index 2024 (EconomistEIU)

イギリス経済誌エコノミストが毎年公表する住みやすさの評価で、安定性、医療、文化・環境、教育、インフラストラクチャーの 5 つの大分野にわたり、定量的指標や社内アナリストと都市担当者の判断に基づいて評価され、一般には Top20 都市が公表される。

⑦ Global Power City Index 2023 (Mori Memorial

Foundation)

(一財) 森記念財団 都市戦略研究所が、世界の主要 48 都市の「総合力」を経済、研究・開発、文化・交流、居住、環境、交通・アクセスの 6 分野で複眼的に評価し、順位付けしたもので、原則同じ 48 都市を毎年評価する。

⑧ Monocle Quality of Life Survey2024 (MONOCLE)

イギリス発のグローバル情報誌「MONOCLE (モノクル)」が、GDP などの客観的データだけではなく、その都市の住みやすさ、働きやすさ、遊びやすさなどについて、実際に都市に住む特派員への聞き取りを行い、上位 20 都市をランキングしたもの。

それぞれの調査の詳細な調査項目ごとの評価値は省略するが、これらの調査は、世界中全ての都市を網羅して対象としているわけではなく、これまでの都市の情報収集実績などをもとに対象都市が抽出されている。どの調査も、対象は首都やメガシティ、欧米の都市が多く、アジアの中小都市は、対象に含まれていない場合が多い。日本の都市も東京や大阪などメガシティを除くと対象は限られ、福岡市は比較的对象となっているものの、ランキングに登場しないものもある。急成長したアジア地域の都市は、世界の中では「後発組」であり、評価の対象として認識されていない可能性もある。

なお、比較の参考として、福岡市と同等の規模で、欧米の都市が中心の『「第 3 極」の都市』⁽⁴⁾ 対象都市の順位もあわせてみる。

評価の結果は、福岡市は、東アジア、東南アジアの同規模都市の中では、比較的多くランキングされており、順位も高くなっている（表 2）。その他のアジアの各都市は、対象都市数が多いものには一部対象に含まれるが、全体としては、対象となっていない都市が多い。

対象都市数が多い調査（①と④など）の中では、福岡市は、欧米等を含む全体順位が上位ではないものの、中位より上のグループにランキングされ、世界の中では一定の評価を得られている面もある。現在、福岡市が対象に含まれないものも、調査対象として含まれれば、一定の評価が得られる可能性がある。

表2 福岡市と人口規模が近い東アジア、東南アジア地域の大都市群の都市評価ランキング（位）

No.	都市圏域 中心市	国・地域	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	
			I G n l d o e b e a l 2 0 C 2 i t i e s	B C A I R T O Y M E B T R E A R N D 2 0 2 3	C W i o r t i l e d ' 2 s 0 2 B 4 e s t	2 C I 0 i n 2 t n 3 i o e v s a t I i n o d n e x	R L Q u a i u n v a k i l i n i n g t y C 2 i o 0 t f 2 y 3	I L T h n i h d v e e e x a G b l 2 i o 0 l b 2 i a 4 t l y	G C G P i l C t o I y b a 2 0 I l 2 n 3 d P e o x w , e r	S o M u r f o n v L o c e i c f l e e 2 0 2 4 Q u a l i t y	
			対象都市数	1,000	100	270	500	241	Top20	48	20
1	石家荘市/Shijiazhuang	中国	623	—	—	—	—	—	—	—	—
2	ハルビン市/Harbin	中国	586	—	—	408	—	—	—	—	
3	長春市/Changchun	中国	716	—	—	441	—	—	—	—	
4	南寧市/Nanning	中国	471	—	—	393	—	—	—	—	
5	蘭州市/Lanzhou	中国	607	—	—	—	—	—	—	—	
6	張家港市/Zhangjiagang	中国	325*	—	—	329*	147*	—	—	—	
7	海口市/Haikou	中国	420	—	—	—	—	—	—	—	
8	銀川市/Yinchuan	中国	548	—	—	—	—	—	—	—	
9	珠海市/Zhuhai	中国	370	—	—	442	—	—	—	—	
10	シ博市/Zibo	中国	860	—	—	—	—	—	—	—	
11	崑山市/Kunshan	中国	325*	—	—	329*	147*	—	—	—	
12	フフホト市/Hohhot	中国	585	—	—	—	—	—	—	—	
13	汕頭市/Shantou	中国	747	—	—	461	—	—	—	—	
14	包頭市/Baotou	中国	726	—	—	—	—	—	—	—	
15	洛陽市/Luoyang	中国	739	—	—	—	—	—	—	—	
16	紹興市/Shaoxing	中国	—	—	—	—	—	—	—	—	
17	惠州市/Huizhou	中国	594	—	—	—	—	—	—	—	
18	西寧市/Xining	中国	—	—	—	—	—	—	—	—	
19	慈谿市/Cixi	中国	444	—	—	347	—	—	—	—	
20	義烏市/Yiwu	中国	641	—	—	—	—	—	—	—	
21	唐山市/Tangshan	中国	714	—	—	—	—	—	—	—	
22	莆田市/Putian	中国	626	—	—	—	—	—	—	—	
23	江門市/Jiangmen	中国	532	—	—	—	—	—	—	—	
24	邯鄲市/Handan	中国	752	—	—	—	—	—	—	—	
25	台中市/Taichung	台湾	205	—	—	342	95	—	—	—	
26	高雄市/Kaohsiung	台湾	240	—	—	285	101	—	—	—	
27	釜山広域市/Busan	韓国	252	—	67	108	95	—	—	—	
28	大邱広域市/Daegu	韓国	310	—	—	211	—	—	—	—	
29	スマラン/Semarang	インドネシア	537	—	—	—	—	—	—	—	
30	パレンバン/Palembang	インドネシア	517	—	—	—	—	—	—	—	
31	マカッサル/Makassar	インドネシア	454	—	—	—	—	—	—	—	
32	マラン/Malang	インドネシア	—	—	—	—	—	—	—	—	
33	ジョグジャカルタ/Yogyakarta	インドネシア	489	—	—	—	—	—	—	—	
34	ジョホールバル/Johor Bahru	マレーシア	376	—	—	—	107	—	—	—	
35	ペナン州/Penang	マレーシア	—	—	—	—	—	—	—	—	
36	プノンペン/Phnom Penh	カンボジア	687	—	—	457	—	—	—	—	
37	マンダレー/Mandalay	ミャンマー	828	—	—	—	—	—	—	—	
38	ウランバートル/Ulaanbaatar	モンゴル	451	—	—	473	—	—	—	—	
39	セブ/Cebu	フィリピン	436	—	—	—	—	—	—	—	
40	福岡/Fukuoka	日本	152	44	—	124	—	—	42	—	
T1	ヘルシンキ/Helsinki	フィンランド	38	33	53	39	34	13	31	11	
T2	ストックホルム/Stockholm	スウェーデン	14	22	29	13	26	—	16	9	
T3	バルセロナ/Barcelona	スペイン	73	10	8	26	48	—	22	16	
T4	ミュンヘン/Munich	ドイツ	32	19	30	16	7	—	—	1	
T5	メルボルン/Melbourne	オーストラリア	9	26	31	23	20	4	9	8	
T6	バンクーバー/Vancouver	カナダ	20	18	50	29	8	7	32	—	
T7	シアトル/Seattle	USA	6	—	34	21	52	—	—	—	

「—」はランキングなし

T1～7:『第3極』の都市』の都市(福岡、釜山も『第3極』の都市』に含まれるが、アジア40都市表中に含まれるため省略)

*県級市の張家港市と崑山市両市を含む上位階層である地級市・蘇州市の順位

る。

これに対し、『第3極』の都市』の欧米各都市は、多くの調査で上位に評価されており、グローバルシティとしてのステータス（地位）が確立したランキングの常連ともいえる状況であるが、福岡市は、この水準には達していない。さらに国際的に評価される都市となるためには、存在感を高め、まずは、これらの評価機関の調査対象の常連となることが重要となる。

2. グローバルシティのステータス（地位）

2.1 グローバルシティの成り立ち

世界の先進都市は、グローバル経済の中で重要な役割を持ち、都市のグローバル化の度合いが、都市の重要な評価基準となり、グローバル企業や人材の進出にも大きく影響する要素となった。今日では、こうした先進都市がグローバルシティと呼ばれ、さらに多くの人や資本が集中するようになった。その経緯を振り返る。

1986年、J. フリードマン(UCLA教授・当時)は、「世界都市仮説」によって、世界の中核司令塔を担う「世界都市」(World City)を公表したが、そこでは、東京を含む世界主要国の首都級の都市しか選定されなかった。1995年には、世界都市のリストを更新し、当時は「地方都市」であったシアトル、バンクーバー、バルセロナ、ミュンヘンが加えられている。これらの都市は、1990年代以降進展した社会のグローバル化の波を受けて、急激にグローバルシティ化した。1999年には、英国ラフバラ大学を拠点に発足した研究グループGaWCによって、「世界都市一覧」が公表され、金融・会計・法律・広告の4業種のグローバル企業の進出度合いに基づき世界都市一覧を作成し、J. フリードマンが公表した世界都市よりも、さらに多くの都市が追加された⁽⁵⁾。

2.2 グローバルシティの拡大～メガシティから中小都市へ

国連人口動態によれば、都市圏人口1,000万を超えるメガシティは、2000年時点で世界に16圏域しか存在しなかったものが、アジアをはじめ世界各地で急速に都市化が進展し、人口が集中する大都市が

急増した結果、2024年には世界で35圏域と、2倍以上に増加している⁽⁶⁾。都市の国際競争力において、人口・経済の集積は、グローバルシティとしての競争優位性を持ち、多くの人や企業、資本などを呼び寄せていることは間違いない。

一方で、都市圏人口が約265万人⁽⁷⁾の福岡市は、今後もメガシティになることはないと考えられ、集積度、人口規模でいえば、福岡市のグローバルシティとしての競争力は高くなり得ないが、世界には、『第3極』の都市』のような、メガシティではなくても競争力を持ち、国際的に高い評価を受けるグローバルシティは存在する。今日では、グローバルシティは、人口の規模だけが尺度ではなく、首都やメガシティではない都市にも、グローバルシティ化の波が押し寄せている。

都市のグローバル化は、在住外国人の増加にとどまらず、貿易や物流面での国際的なつながりが拡大し、資本や物資、労働力が国境を越えて経済活動が広がった結果であり、グローバル経済のネットワークの中に、福岡市を含むメガシティではない都市、地方都市も組み込まれている状況といえる。

山崎(2011)が、多極化する世界経済は、よりフラットな世界都市システムへ移行する中で、地方都市でも新しい都市システムやグローバル経済への対応が求められるようになり、グローバルシティ化の都市戦略における重要性は、ますます高まっている⁽⁸⁾と指摘したことが、今、世界で顕著に表れている。メガシティでもない、地方の中小規模の都市であっても、グローバル経済との関係を強化しながら、グローバルシティとして飛躍、発展する可能性が示されている。この文脈において、福岡市もグローバルシティの進化の過程にある。

2.3 企業活動で広がるグローバルシティ

グローバルシティ化が、地方の中小規模の都市まで及んだ背景としては、米国のスティーブン・ハイマーが『多国籍企業論』の中で「多国籍企業を分析する単位としては国家よりも都市の方に意味がある」という見解を示したように、国家を越えて活動する企業活動による結果にほかならない。企業活動の中でも、価値連鎖の上流部門と下流部門の頭脳に

相当する戦略的に重要な意思決定活動を行う拠点都市がグローバルシティへと進化する(瀬藤・2022)⁽⁹⁾。「国家」(National)があり、国と国の関係を示す国際(Inter-National)に対し、国家や国境の概念がないボーダレスの全地球的な状態にあるのがグローバル(Global)であり(浅川・2009)⁽¹⁰⁾、首都やメガシティであるかどうかは関係なく、多国籍企業が、国境を越えた活動を行う拠点がグローバルシティである。

古くから、国境を越えたビジネスが盛んであったヨーロッパの国々の都市が、歴史的に栄えてきた強みを背景に、グローバルシティとして、成熟したステータス(地位)を確立し、多くの都市ランキングの上位都市の常連として、評価され続けているといえる。

2.4 企業が求めるグローバルシティの条件

林(2021)は、グローバル企業は、水平型投資の事業目的を持つ海外子会社の立地選択において、グローバルシティを選択する傾向を持ち、垂直型直接投資の事業目的においては、グローバルシティ以外を選択する傾向を持つとする⁽¹¹⁾。即ち、本国にはない安価な労働力や原材料を海外市場に求めて、当該市場で効率的生産を行う垂直型直接投資は、グローバルシティ、大都市である必要はなく、むしろそれ以外を選択するのに対し、現地市場に合わせた戦略を立てる中枢機能を持ち、当該市場でサービスを展開する水平型投資は、グローバルシティを選択するもので、これは、現地市場やサービスと密接な関わりを持つ必要があるためである。

また、山崎(2011)は、垂直型直接投資の性格が強い工場の立地であっても、進出先は、農村部ではなく、グローバルシティの周辺部を極端に指向すると指摘する⁽¹²⁾。工場の部品輸送、工場からの製品輸送は、地域内や国内で完結せずグローバルに行われるため、国際空港や国際港湾との距離やアクセス道路の整備状況が重視されるため、現地本社機能や中枢・司令塔機能へ派遣された従業員の生活空間は、教育、医療、住宅などの面において、質の高い生活環境を有するグローバルシティが選択されることが背景にある。

3. グローバルシティと「専門サービス業」

3.1 グローバル企業の現地活動ツールとしての「専門サービス業」

前項の通り、グローバルシティは、グローバルに展開する企業の戦略的に重要な意思決定を行う中枢機能が集積することで成り立ってきた。アルゼンチンの社会学者で、「グローバル・シティ」の著者でもあるサスキア・サッセンは、企業がグローバルな展開を行うためには、高度にネットワーク化された会計、法務、広告、金融、通信などの専門サービス部門が必要であると指摘する⁽¹³⁾。企業活動が国境を越えて分散するほど、中枢機能は複雑化し、会計、法律、広報、プログラミング、情報技術などの諸機能が、それぞれ専門サービスを提供する外部にアウトソーシングされるようになる。「世界都市一覧」公表時のグローバル企業の進出度合いを測るものは、金融・会計・法律・広告の4業種であったが、グローバルシティでは、関連する分野はさらに複雑化しており、グローバル企業は、進出先における戦略・中枢部門や顧客サービスなどの本業への注力や、現地の専門人材の内部確保の困難さから、アウトソーシングにより、効率的に業務を遂行する傾向にある。これら専門サービスを扱う地域の企業、人材が集積することが、グローバルシティ化を加速する要件の1つになると考えられる。2023年9月、台湾の中小企業向け融資でトップシェアの民間金融機関・玉山銀行が、国内2番目の拠点として福岡市に進出したが、隣県熊本・菊陽町にTSMC工場が進出したことを機に、台湾企業が九州への投資を積極的に推し進める中、こうした企業への支援と九州と台湾の経済連携を強化する役割を担うもので⁽¹⁴⁾、福岡市において、こうした例は、今後ますます増える可能性がある。福岡市は、国際金融機能の誘致に力を入れているが、国際金融機能が、グローバルな経済活動を支援するツールとして機能し、地域経済を活性化することが期待されるためでもある。

こうした専門サービスを扱う海外の企業が、既に進出しているグローバル企業を顧客として新たに進出するだけでなく、地域の専門サービスを提供する企業も、現地の法律や規制、慣習などに詳しい強み

をいかし、海外企業から専門サービス分野の業務請負や、さまざまなビジネス上の不利や不便の解消を支援することが可能となる。地域の企業が、グローバルシティを構成する一員としての役割を持つようになるとともに、新たなビジネス機会の創出が期待される。

3.2 福岡市で存在感を増す「専門サービス業」

グローバルシティ化の進展を後押しする専門サービス分野において、福岡市は高いポテンシャルを有している。さらに言えば、福岡市の専門サービス業は、近年では存在感を増し、今や福岡市を代表する産業となりつつある。

福岡市は、サービス業が生産額の9割以上を占め⁽¹⁵⁾、サービス業が都市の成長を牽引してきたが、近年では、サービス業の内容が変化している。

福岡市経済活動別生産額の成長率と特化係数*をみると、生産額は、「専門・科学技術、業務支援サービス業」が、従来のサービス業の中心であった「卸売業」や「小売業」を超えるボリュームとなり、成長率、特化係数（福岡市らしさ）ともに高く、今では福岡市の主要産業であることを示している（図4）。

「専門・科学技術、業務支援サービス業」は、「専門」の名称が示す通り、実際にはさらに詳細に分類されるが、生産額の内訳は公表されないため、経済センサス調査における従業者数について、「学術、専門・技術サービス業」の福岡市の産業中分類別でみると、「建築設計業」のほか、「法律事務所」、「経営コンサルタント」、「広告業」、「社会保険労務士事務所」、「税理士事務所」などのグローバルシティ要件とも重な

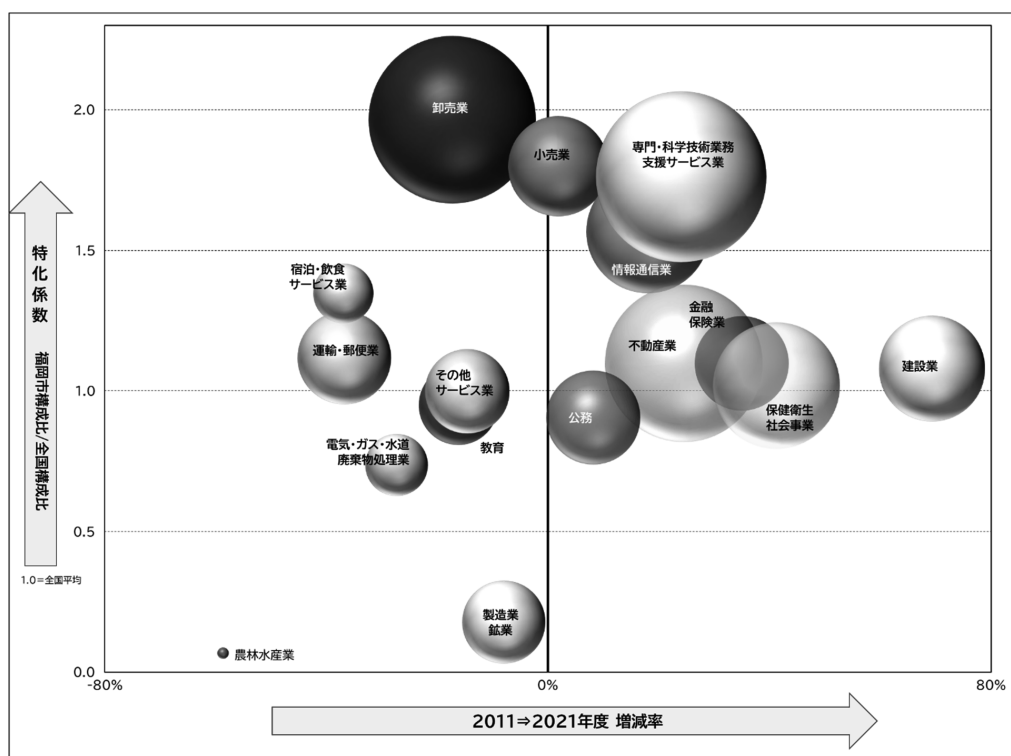


図4 福岡市経済活動別生産額の成長性と特化係数

出所：福岡市民経済計算、国民経済計算

* 変化率は実質値、特化係数及び生産額ボリュームは2021年度の名目値による・バブルの大きさは生産額の大きさ

特化係数：各分野の生産額の全体に占める割合の「全国平均」を1とした場合の福岡市の各分野の割合の数値。1より大きいと「割合がより大きい＝特化係数が高い＝福岡市の特徴」となる

経済活動	福岡市2021 (百万円)*:名目	2021/2011	特化係数	福岡市2011 (百万円)*:実質	福岡市2021 (百万円)*:実質	全国2021 (百万円)*:名目
農林水産業	4,926	-58.6%	0.1	10,575	4,375	5,224
製造業・鉱業	284,025	-8.0%	0.2	320,509	295,000	112,876
電気・ガス・水道・廃棄物処理業	157,884	-27.3%	0.7	206,043	149,786	15,166
建設業	460,115	69.4%	1.1	250,792	424,757	30,156
卸売業	1,149,372	-17.3%	2.0	1,269,397	1,050,207	41,363
小売業	412,422	1.9%	0.9	376,463	383,586	33,555
運輸・郵便業	357,628	-36.8%	1.1	529,926	335,079	22,626
宿泊・飲食サービス業	146,242	-36.9%	1.3	219,337	138,406	7,677
情報通信業	621,552	18.1%	1.6	540,777	638,391	28,044
金融・保険業	363,972	35.0%	1.1	294,960	398,247	23,433
不動産業	1,017,873	24.5%	1.1	801,423	998,144	65,568
専門・科学技術、業務支援サービス業	1,199,565	24.1%	1.8	881,151	1,093,243	48,125
公務	361,950	8.2%	0.9	324,949	351,530	28,259
教育	257,195	-16.1%	0.9	299,333	251,102	19,155
保健衛生・社会事業	657,523	41.3%	1.0	465,532	657,614	45,648
その他のサービス	289,969	-14.5%	1.0	322,767	275,869	20,532

る専門サービス、士業系などの分野の特化係数が高く、企業や人材に一定の集積があることがうかがえる（表3）。

福岡市が、こうした専門サービス業分野で強みを持つことは、グローバルシティとして、グローバル企業のビジネス展開上でも優位性を持ち、専門サービス分野の地域の企業等が、海外企業との連携によって、福岡市の経済活動のさらなるグローバル化を牽引する役割を担うことが期待される。

表3 福岡市産業中分類別従業者数と特化係数

学術・専門・技術サービス業 業務支援サービス業 中分類	福岡市	
	従業者数 (人)	特化係数 (構成比全国=1)
建築設計業	11,685	2.17
広告業	4,843	2.16
経営コンサルタント業	4,611	1.70
税理士事務所	3,302	1.35
法律事務所	1,661	1.87
その他の土木建築サービス業	1,441	2.98
測量業	1,269	1.23
商品・非破壊検査業	1,181	1.20
デザイン業	1,173	1.77
自然科学研究所	1,150	0.25
公認会計士事務所	1,033	1.51
純粋持株会社	952	0.93
機械設計業	911	0.44
社会保険労務士事務所	740	1.86
計量証明業	683	1.36
写真業	664	0.94
公証人役場、司法書士事務所	660	1.30
獣医業	605	0.68
行政書士事務所	295	1.30
土地家屋調査士事務所	187	0.76
人文・社会科学研究所	171	0.75
特許事務所	91	0.51
著述・芸術家業	18	0.75

出所：総務省令和3年経済センサス活動調査
 * 経済センサス調査は、令和3年調査より調査手法が変更となり過去との単純比較ができず、正確な増加率が不明のため、従業者数の特化係数のみ示す

4. まとめ～福岡市のグローバルシティ・ステータス（地位）向上のために～

4.1 グローバルシティ化が都市の宿命

企業がグローバルに活動する今日、経済活動を通して都市が世界と関わるのが、その都市の力だけでは成しえない進化を促すブースター（後押し）となる。都市がグローバル化にどのように向かい合うかは、単なる夢や希望や願望ではなく、現実的なテーマであると同時に、都市の将来を左右す

る重要な課題（山崎・2011）であり⁽¹⁶⁾、グローバルシティとして進化していくことが、今日の都市の成長の宿命ともいえる。

企業活動だけでなく、福岡市は、生活環境面でも、グローバル企業の管理・中枢部門の社員、高度人材などが、居住地に求める高い生活の質を誇る都市環境を有しており、そのポテンシャルは高く、こうした人材の生活面での支援サービスを充実することも、グローバルシティのステータス（地位）を確立するために重要となる。

4.2 福岡市が“世界からみつかる”ように

福岡市は、数字の上では、国際化は確実に進んでいるが、世界の中での存在感はまだ十分ではない。世界の都市評価機関の調査において、依然として、世界全体では上位グループとは差があるばかりか、評価の対象にすらなっていない調査もあり、メガシティやヨーロッパの伝統的な都市のように、「誰もが知る都市」にはなっていない。即ち、グローバル企業の進出先として、検討時の俎上に上がらないケースも少なくないと考えられる。

世界の中の“フクオカ・シティ”として、さらに存在感や認知度が高まるように、世界との関わりを広げ、グローバルシティとしての進化を継続しながら、成熟度を高めていくしかない。

4.3 アジアのリーダー都市としての進化

都市調査機関からの福岡市の評価は、東アジア、東南アジア地域の同規模の都市の中では、相対的に高い。

アジア地域の都市は、ヨーロッパなどの都市と比較して「後発組」であり、これから、その存在感が高まっていく段階と考えられるが、福岡市は、こうした東アジア、東南アジア地域の次代の成長都市の中では、グローバルシティとして先行している。

東アジア、東南アジア地域の同規模の都市の多くが、第2次産業の発展で成長しており、これから産業がどのように変化するかは不明であるが、グローバルシティとして成長することが都市の共通の課題であることから、福岡市が、成熟したグローバルシティとしてのステータス（地位）を確立し、アジアのリーダー都市として、これらの都市のモデルとな

ることが重要である。

4.4 グローバル企業とともに～専門サービスをツールとして

福岡市は、海外に開く空港や港湾を有し、鉄道、高速道路など、九州各地とのアクセス性に優れ、各地の産地、工場等からの流通網が充実しており、もともと、国内外の企業の管理・中枢部門の立地に適している都市である。

グローバル企業の進出をさらに促進するためには、こうした企業が管理・中枢機能に集中、特化できるよう、福岡市でビジネスを展開する上でのさまざまな支援を行う金融、会計、法務などの専門的なサービスを提供する企業の存在が重要である。福岡市の新たな産業の柱になりつつある「専門サービス業」分野の集積は、グローバルシティ化を加速する強みであり、進出したグローバル企業の、地域におけるビジネスを支援する新たなビジネスチャンスも期待される。専門サービス企業の誘致や、地域企業の国際化の対応を強化し、海外企業とのコラボレーションが増えることで、福岡市におけるグローバル・ビジネスが活性化していくことが期待される。

福岡市の次世代を担う人材も、福岡市の主要産業である専門サービス業で活躍する専門的な知識や技術を有する人材の育成に力を入れるとともに、国際的なビジネス感覚を身に付ける機会を増やすことが重要といえる。

終わりに

福岡市では、産学官連携の「TEAM FUKUOKA」⁽¹⁷⁾の国際金融機能の誘致活動が、既に多くの企業進出に結び付いているように⁽¹⁸⁾、福岡市のグローバル戦略は、多くのグローバル企業等の進出により、次のステージへと進化しつつある。福岡市のグローバルシティ化がさらに進化することで、世界の中の“フクオカ・シティ”としてのステータス（地位）は、さらに上昇していくことが期待される。

東京が、世界最大規模の人や企業、資本が集中して、世界の首都やメガシティのリーダー都市の1つとして存在感を示す中で、福岡市は、メガシティではないアジアの次代の成長都市群の中で、リーダー

都市としての役割を担うことが期待される。

国内の性格の異なる2つの都市が、リーダー都市として、世界に向けて、日本を牽引する役割を持つことに期待したい。

コラム

受け入れる都市の“グローバルマインドセット”

本稿では、主にグローバルな企業活動が、都市のグローバルシティ化を加速することを論じたが、主体はグローバル企業であり、都市（福岡市）のさまざまなステークホルダーの個々の役割については、詳述していない。

海外からの企業進出を機として、福岡市に移り住む人が増えるとともに、さまざまな機会でステークホルダーとの交流機会が増え、相互に影響し合うことになる。市民一人ひとりが、グローバルシティの一員としての認識をアップデートすることが重要となる。

いわゆる市民の国際的な意識の醸成は、従来は政策として行政主導で行われ、1980年代後半から「国際交流」と「国際協力」、1990年代以降は、「多文化共生」、近年では、「多様性・包摂性のある社会」の文脈で語られてきた⁽¹⁹⁾。

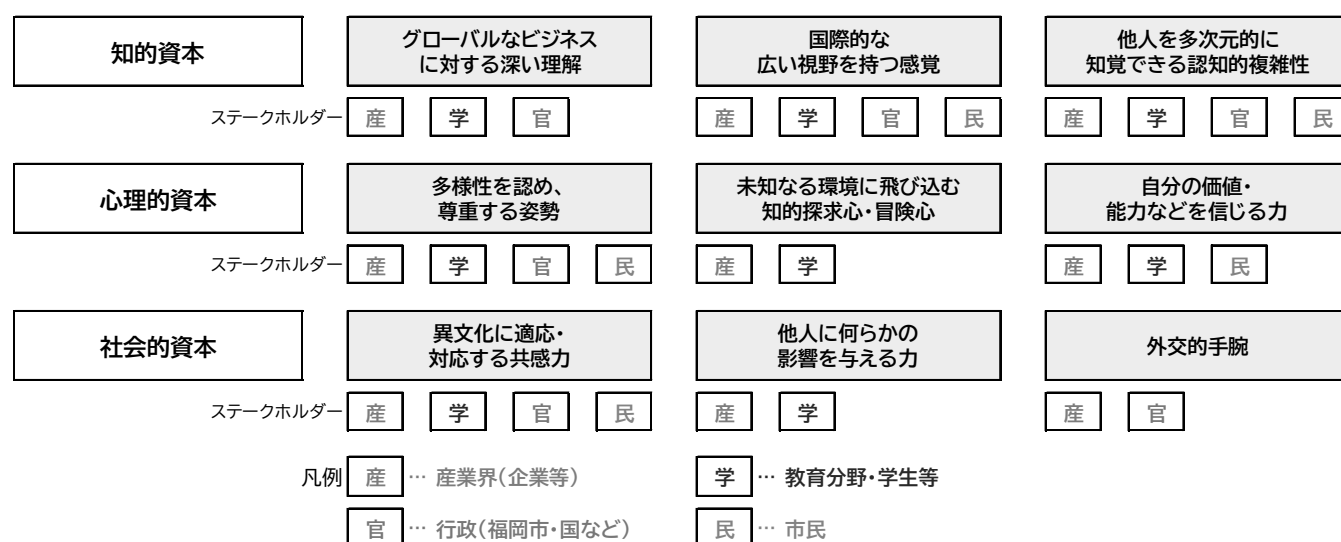
都市のグローバルシティ化の流れを受けて、市民意識もアップデートすることが求められ、地域の企業の従業者や、人材を育成する教育機関なども含めた産官学民によるオール福岡の取組みとしてとらえる必要があり、関わる全てのステークホルダーの「グローバルマインドセット」が求められる。

「グローバルマインドセット」は、異なる文化や価値観を理解・尊重し、相手と協力していく思考や行動を指し、従来の行政主導の多文化共生の政策とは異なり、本来は、企業の海外進出の際の、社員が意識、身に付けるべきマインドを指す言葉として、企業における海外赴任社員向けの教育等で用いられてきたが、これは、まさにグローバルシティの住民として必要な概念でもある。

徐誠敏（2015）らは、「グローバルマインドセット」を、企業の海外進出を念頭に、「さまざまな文化や感情が交錯するグローバルな市場環境の変化に

柔軟かつ迅速に対応できるグローバル人材が兼ね備えるべき資質と能力の組み合わせを指す」ものとして、グローバル人材育成戦略の視点から、「知的資本」、「心理的資本」、「社会的資本」の3つの戦略的要素からなる「グローバルマインドセット」のフレームワークを示している⁽²⁰⁾。これらは、進出する企業向けの人材育成、意識のアップデートのためのものだが、国際的な交流は、一方的に価値を押し付け、押し付けられるものではなく、相互に影響し合うものである。特に、グローバルシティと呼ばれる都市は、受け入れる都市の側も、ステークホルダーが「グローバルマインドセット」を意識して、相互理解を越えて、成熟した関係の構築を目指すことが重要となることから、これらの要素を、受け入れる都市の側に置き換え、意識のアップデートをすべき内容について、それぞれステークホルダー（産学官民）の配置を試みた（図5）。

世界でステータス（地位）を確立し、成熟したグローバルシティの住民であるために、都市の主体から考え、各ステークホルダーがどのように関わっていくかの視点で、それぞれの必要な要素を身に付けられるように、意識を高めていくことが重要となる。



徐誠敏Seo, Sung Min 李美善Lee, Miseon[2015],p19をもとに筆者加筆

図5 グローバルマインドセットと戦略的フレームワーク・ステークホルダーの関係

謝辞

本研究に際し、アジア各都市の情報、統計等の収集、翻訳に協力いただいた URC 張睿研究スタッフに感謝いたします。

参考文献等

- (1) 世界990都市圏域の人口統計報告 Demographia World Urban Areas2023 (DEMOGRAPHIA)
注) 本統計では都市圏域の定義を「連続、またはほとんど連続した既成市街地」としており、自治体境界による人口とは異なる。この基準での福岡都市圏域人口は236.8万人(参考:自治体境界都市圏17市町人口264.2万人・2023推計人口)
- (2) 総務省による規定 https://www.stat.go.jp/data/kokusei/2020/kekka/pdf/ug_03.pdf P45.
- (3) FUKUOKA GROWTH2024 P47・各都市域内経済計算(2020年度名目値)
- (4) (公財)福岡アジア都市研究所(以降URC)発行の福岡市とメガシティではない生活の質で評価される8都市を比較し2年毎に発行しているデータブック『「第3極」の都市』で取り上げている世界の9都市
- (5) URC「2017福岡のグローバル・ネットワーク」(2017) P18から加筆転載
- (6) 国連人口データ
[Internet]. 2024 [cited 2024 Nov 29]. Available from: <https://population.un.org/wup/DataQuery/>
- (7) 2024年10月時点推計人口・福岡都市圏17市町人口の合計
- (8) 山崎朗,2011,グローバル・リンケージと都市,P8
- (9) 第3の都市,都市空間の変貌 瀬藤澄彦
[Internet]. 2022 [cited 2024 Nov 29]. Available from: <http://www.world-economic-review.jp/impact/article2680.html>
- (10) 浅川公紀,グローバル化の経済分析,2009,P3
[Internet]. 2009 [cited 2024 Nov 29]
Available from: [https://www.musashino-u.ac.jp/research/pdf/グローバル化の政治経済](https://www.musashino-u.ac.jp/research/pdf/グローバル化の政治経済分析.pdf)
- (11) 林正,グローバルシティと海外子会社の立地選択ー企業の投資目的と国の制度環境の影響,2021,P65
- (12) 山崎朗,2011,グローバル・リンケージと都市,P7
- (13) サスキア・サッセン,グローバル・シティ,2008,
[Internet]. 2024 [cited 2024 Nov 29]. Available from: https://www.rieti.go.jp/jp/special/special_report/019.html
- (14) JETRO 海外ビジネス情報
[Internet]. 2023 [cited 2024 Nov 29]. <https://www.jetro.go.jp/biznews/2023/09/06ca17a8b4c0d79f.html>
- (15) 本稿表1-40福岡市の値。福岡市民経済計算・経済活動別生産額(2021年度)
- (16) 山崎朗,2011,グローバル・リンケージと都市,P2
- (17) 福岡市に国際金融機能誘致するための産学官連携の推進組織
- (18) [Internet]. 2024 [cited 2024 Nov 29]. Available from: <https://financialcity.fukuoka.jp/companies.html>
- (19) 総務省「地域の国際化の推進」
[Internet]. 2024 [cited 2024 Nov 29].
<https://www.soumu.go.jp/kokusai/>
- (20) 地域専門家制度から見たサムスン電子の「グローバル・マインドセット」の構築戦略-複眼的・多角的な視点による考察を中心に 徐誠敏 Seo, Sung Min 李美善 Lee, Miseon 経済経営論集 第23巻第1号2015年12月 P18~19